

スーパーデイ・デイサービス ようざんミニ事例集

被害妄想が強い方の相談ケース

職員との関係づくりと、居場所づくり

要旨：A様(男性・要介護度1)

A様は、強い被害妄想から非社会的行動をとられるA様にご家族は振り回され、精神的に不安定な様子もうかがえませんでした。そんなA様もその思いに寄り添う時間を大切にしたら結果、現在週3回のデイサービスを楽しみにご利用されております。



A様は認知症の奥様と2人暮らし。奥様の介護負担の軽減と社会的交流を目的にご利用開始となりました。ご利用当初は、眉間に皺をよせ「お金が無くなつた！警察に訴える」など被害妄想が頻回に聞かれました。実際に施設が疑われ警察から事情聴取を受けた事もありました。日によって訴えの内容は異なりましたが、主に「妻をいじめる職員が居る！警察や福祉事務所に訴えてやる！」との内容が多く聞かれ、また他の利用者様に悪口を訴える事が多くなりました。その言動は利用日で無い日にも歩いて施設に來られる程に混乱されている状況でした。

そんな被害妄想を持ってしまふA様を、葉だけでなく「心のケアが一番大切」と考え、職員はA様の言動を一切否定せず受容の気持ちで接する事を心がけました。ご利用当初は怒りや不満が非常に強く、事務所で1時間以上お話を聞く事もありました。併せてお話を聞きながら時には気分転換に屋外への散歩を勧めたり、煙草にお付き合いしながら、事務所でも時にはお茶とお菓子

ポイント！

- ◎少人数のデイサービスなので、きめ細かな対応が可能です。
- ◎様々な希望や要望に応えられるように毎日バラエティに富んだレクリエーションを提供しています。
- ◎寄り添うケアを大切にし、時間をかけて傾聴し、受容する事を職員一人一人が実践しています。

今回の事例はデイサービスようざん並榎、吉岡が紹介させて頂きました。



を出しながらとシチュエーションを変えて、A様の抱えている怒り・不満・不安や介護の苦勞を受け止め、その思いに寄り添う時間を大切にしました。思いのたけを出し尽くされるとすっきりした表情で皆さんがいるホールへと戻られるA様。「何かあったら、また相談に来て下さいね」「ああ、また来るよ」そんなやり取りが1か月以上続きましたが、いつしか話される内容も若かりし日の事や農作業の事なども話して下さるようになりました。そんなある日職員が何気なく「畑に何か植えたのですか・・・」と言うと「俺が植えてやるよ」と。それをきかっけに畑の世話をして下さり、また細かい手作業がお好きなA様に壁画作りもお願いしたところ、こちらも集中して取り組まれ女性利用者様から「ここに座って」と手招きされるほどの人気者となられ、今では被害妄想も殆ど聞かれなくなり、最近では笑顔で「俺に何かあっても、ようざんがあるから安心だ」と嬉しい言葉も頂きました。

もちろん薬の効果もあるかもしれませんが、他者との交流や安心して話せる関係、話し相手、好きな事を余暇活動に取り入れ充実を図った事で居場所が確保でき精神的な安定に繋がった事で被害妄想が軽減されたと思われまふ。被害妄想はご本人が一番辛い思いを抱えます。少しでもその思いに寄り添う為に職員は時間をかけ傾聴し受容する姿勢が大切だと実感しています。穏やかな一時を過ごしていただけるように諦めず携わっていただければと思います。